



カウンスリングは院内の紹介は3000円、院外は12000円

「さらに最近では、乳がんの発症に特定の遺伝子の変異（変化）がかかわっていることが明らかになりました。BRCA1、BRCA2という遺伝子です。今は血液検査で遺伝子の変異を調べることで、アンジ1はその検査で変異がわかったのです」（山内医師）

「乳がん」遺伝」と思い込み、不安にかられた女性が少なくないという。山内医師と共に遺伝カウンセリングを実施する認定遺伝カウンセラーの吉野美紀子さんは、報道があった後の様子をこう話す。「父親が呼吸器のがんになったけれど、自分の乳がんは大丈夫だろうかなど、HBOCの可能性が極めて低い方からの問い合わせも少なくありませんでした」

「ここまでは、医療者からこうしたほうが良い」とは言いません。患者さん自身が決めることが大事なのです。もちろん、選択に必要な材料を私たちは提供し、悩み抜いて患者さんが決めた結論は尊重します。その後のフォローアップも、気

「受診理由は、今後の対策を考えるため」「知識を得たい」「子どもなどのことを考えて」などが多い。以前は、担当医に言われて来た方がほとんど。今もそういう方はいますが、他院で治療を受けた方が、HBOCについて話を聞きたいと連絡してくる例が増えています」（大川さん）

「わが国にとってHBOC元年ともいえる今年、同院のような充実したカウンセリングが受けられる施設が少ないなどの課題もある。さらに危惧されるのは、この病が偏見や差別の対象となりがちな点だ。アメリカでは差別を禁止する法律が成立したが、残念ながら、日本では医療に関する人権意識は極めて低く、遺伝子診断の法的な枠組み作りもない。成熟した社会で真の豊かさとは何か。病める人に本当に寄り添える社会の創生を切に願う。



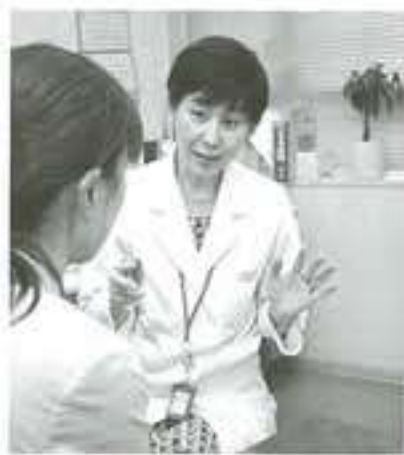
左から山内医師、大川さん、吉野さん。遺伝カウンセリングができる施設は国内に50カ所ほどしかないが、ここまで充実しているところは少ない

伊藤隼也が行く！ニッポンの医療現場 第49回

報道されない「遺伝と乳がん」の真実 検査やリスク低減手術は必須ではない まずは「正しい理解」が必要

今年5月、米国の女優アンジェリーナ・ジョリーが、遺伝が関わる乳がんのため両側の乳房を切除したことを告白した。このことはわが国でも驚きをもって報じられたが、「正しい情報が伝わっていない」との声も聞く。そこで改めて遺伝と乳がんの関係について、専門家を取材した。

「乳がんと遺伝の関係について、多くの人が興味を持ついい機会でした。しかしその一方で、正しい情報が伝わったかといえ、必ずしもそうとはいえません」
こう嘆くのは、聖路加国際病院乳癌外科部長・プレストセンター長の山内英子医師だ。同院では5年以上前から山内医師を中心に、遺伝性の乳がんに対する医療を実施。わが国で最も進んだ施設の一つといえる。
「一般的に、がんの発症には環境的な要因と遺伝的な要因が関与している。前者は喫煙や飲酒、食べ過ぎなどで、後者は家族にがんを発症した人がどれくらいいるか（家族歴）が目安となる。



あせりは不要。何度も話し合い結論を出すことが大事